

2015年11月20日

東京電力株式会社
取締役会長 数土 文夫 殿

原子力改革監視委員会

原子力安全改革プランの進捗等に関する監視結果について
～原子力改革監視委員会から東京電力取締役会への答申～

当委員会は、昨日、柏崎刈羽原子力発電所を訪問し、強化している安全設備や緊急時対応訓練を視察するとともに、現場の職員とも対話した。その上で、本日開催した第10回原子力改革監視委員会において、東京電力から原子力安全改革の進捗等について報告を受けた。

- 今回の視察を通じて、柏崎刈羽では、安全設備の設置、多重多様な電源・水源の整備など、福島事故の反省と検証結果を踏まえ、設備面と運用面の対応が着実に進められていることを確認した。
- 事故シナリオを事前に周知せずに実施した緊急時対応訓練においては、ICS(米国の現場指揮システム)を活用した情報伝達や指揮命令系統の明確化などが大きく改善されており、多様なシナリオで繰り返し実施している訓練によって対応力が着実に向上していることを確認した。
- 東京電力では、原子力安全改革プランを策定して3年となる本年度末に向けて、福島事故の検証と総括を踏まえたこれまでの取り組みに対する自己評価を進める計画であるとの報告を受けた。
- 東京電力が「地元の皆さまや仲間を危険な目に遭わせない」との強い決意の下、現場を含む組織全体に原子力安全改革を浸透させるべく、一貫して努力していることを確認したが、現状に満足せず、更なる改善・向上に取り組むことを促していきたい。

以上